

第47回多摩川流域セミナー

『府中を歩くと見えてくる！多摩川が育んできた流域の歴史』 開催報告

1 概要

- 日 時：2017年2月5日(土) 10:00～12:00(曇り)
- 場 所：西府駅～府中市郷土の森博物館
- 主 催：多摩川流域懇談会
- 協 力：府中市郷土の森博物館
- 参加者：計85名(一般参加者52名・スタッフ33名)

2 プログラム

- プログラムの概要は表1に示す通りです。

表1 「第47回多摩川流域セミナー」プログラム

項目	説明者	場所
開会挨拶	神谷 博氏(多摩川流域懇談会運営委員長)	西府駅前
西府町湧水・府中用水に関する説明	進藤 礼治郎氏(環境カウンセラー)	西府駅前 市川緑道東屋
新田川緑道・分倍河原古戦場碑・雑田堀親水公園に関する説明	角倉 道春氏(都市整備部公園緑地課長)	新田川緑道 新田川分梅公園 雑田堀親水公園
見どころ説明	1班：阿比留 裕信氏(京浜河川事務所) 2班：佐山 公一氏(TBネット) 3班：岩崎 俊勝氏(狛江市)	各見学ポイント

3 現地見学

当日は、見どころの説明が掲載されたしおりを片手に、3班に分かれて解説を聞きながら約3.6kmの道のりを歩きました。

多摩川によって形成された河岸段丘である府中崖線（西府崖線）上の西府駅をスタートし、湧水を見学できる崖下まで歩き、崖の高低差を体感しました。崖下へ降りると、湧水の流れる流路や府中用水、暗渠の上に整備された緑道をたどりながら、府中市郷土の森博物館までを歩きました。途中には、分倍河原古戦場跡のような歴史的な見どころや親水整備された公園もあり、変化に富んだコースでした。



見どころが掲載されたしおり



見学ルート

3.1 集合

- 10時に西府駅に集合しました。
- 京浜河川事務所の高橋課長より注意事項について説明がありました。



集合の様子



注意事項の説明

3.2 開会挨拶

神谷 博氏（多摩川流域懇談会運営委員長）

- 今日は、午後の歴史セミナーにつながる豊かな面白い話が聞けると思います。
- 私は普段は野川で活動していますが、野川にも崖線があります。
- 「府中がなぜここにあるか。」ということですが、現在では少ない湧水も、昔はたくさんあったと考えられ、水が豊かで飲み水が豊富であったことが挙げられます。地下水の大きな流れが府中に集まっています。現在府中にある湧水は、瀧（おたき）湧水、西府町湧水の2ヶ所とされています。
- 今日のコースでは西府町湧水、府中用水網など、地域を支えてきたものを見学することができます。



開会挨拶

3.3 西府町湧水・府中用水に関する説明

進藤 礼治郎氏（環境カウンセラー）

西府崖線や湧水、用水の保全活動に携わってこられた進藤さんより解説をしていただきました。

3.3.1 西府町湧水について

西府町湧水は、西府崖線（府中崖線の一部）から湧き出ている湧水です。当日も湧き出ている様子を見ることができました。出発前に、進藤さんより説明していただきました。

- ・ 私は、府中かんきょう市民の会という NPO で活動していました。
- ・ 西府駅は平成 21 年に完成しました。その頃、区画整理事業に伴い、ハケ（崖線）に道路を整備するという話が挙がりました。自然林が無くなる事で湧水が枯れることを危惧し、反対運動を行いました。その結果として、西府崖線は保全されています。
- ・ 昭和 48～49 年ごろ、府中市が買い取り、府中市段丘崖緑地保全地域に指定されました。そこから湧き出る西府町湧水は、東京都の「東京の名湧水 57 選」に選定されています。
- ・ 府中かんきょう市民の会では、「後世に残そう ハケ、用水、湧水」を合言葉に活動をしています。これからもこの崖線や湧水を守っていきたいと考えています。



解説いただいた進藤さん



西府町湧水

3.3.2 府中用水について

府中用水は、多摩川から取水している水や湧水・地下水を集めながら流れる農業用水です。現地見学で歩いた市川（市川緑道）や新田川（新田川緑道）もその一部です。市川緑道の東屋周辺で、進藤さんより説明していただきました。

- ・ 府中用水は、国立で多摩川から取水しています。市の調査では総延長が 86km に及ぶそうです。取水口からの本流の長さは約 8.75km であり、取水口から再び多摩川に合流するまで、単純計算で 8～9 本の流路があることになり、水路網が張り巡らされていることがお分かりいただけるかと思います。
- ・ 田畑の灌漑のため、「府中用水土地改良区」の用水組合によって利用されています。管理は府中市下水道課が行っています。昭和 40 年代、本流は第一都市下水路として多くが暗渠化されました。
- ・ 現在ではほとんどが暗渠となっています。府中用水の暗渠率は約 67%で、開渠が 22%、素掘りが 11%となっています。



府中用水の説明の様子



府中用水

3.4 新田川緑道・分倍河原古戦場碑・雑田堀親水公園に関する説明

角倉 道春氏（都市整備部公園緑地課長）

角倉さんからは、新田川緑道、分倍河原古戦場跡、雑田堀親水公園について説明していただき、道中の見どころについても説明を加えていただきました。

3.4.1 新田川緑道について

- ・ 新田川は昔の多摩川です。今では灌漑に必要な分が流れています。昔の多摩川と陸の境界線であり、昔は多摩川が暴れていたことが分かります。
- ・ 現在は雨水を排除するための第四都市下水路として暗渠化され、その上が緑道として整備されていますが、流れが復元された場所（新田川分梅公園など）もあります。

3.4.2 分倍河原古戦場碑について

- ・ 分倍河原古戦場碑は、新田川と鎌倉街道が交差するところに建てられています。昭和 10（1935）年に新田氏の子孫の新田義美氏により建てられました。
- ・ 「分梅」の地名の由来については、複数説がありますが、一説によると、分倍河原の合戦の「軍配が上がった」ことが由来ともいわれているそうです。

3.4.3 雑田堀親水公園について

- ・ 府中用水の支流で、この場所もコンクリートで固められた水路でしたが、平成 25 年度に改修され、親水整備が行われました。
- ・ 近隣の矢崎小学校の PTA、地元の用水組合等で「Team 雑田堀」という団体が立ち上げられ、清掃活動や植栽活動等が行われています。矢崎小学校では学内にもビオトープが整備されて環境教育の活動が行われています。



解説いただいた角倉さん



雑田堀親水公園

3.5 見どころの説明

1 班・阿比留 裕信氏（京浜河川事務所）

2 班・佐山 公一氏（TB ネット）

3 班・岩崎 俊勝氏（狛江市）

移動の途中には、しおりに掲載されているものを中心として、イラストや写真等をパネル化したものを用いながら、以下のような地形や用水、河川施設や自然環境、歴史に関する説明が行われました。班ごとに懇談会メンバーの国土交通省、自治体、市民の説明係から解説がありました。



- 御嶽塚



西府駅南口のほど近くにある古墳時代の古墳です。江戸時代には信仰の対象となり、古墳上には石祠が祀られています。府中市の指定文化財です。

- 河岸段丘の地形



多摩川によって形成された河岸段丘上にある西府駅から西府町湧水に向かう途中に崖線上からを見下ろしました。



西府町湧水に向かって西府崖線を歩いて下り、その地形と高低差を実感できました。

- ・ 市川緑道



府中崖線（西府崖線）に沿って、多摩川から取水している水や沿川の湧水を集めて流れる市川（府中用水の別名）沿いに遊歩道が整備されています。

- ・ 分倍河原古戦場碑



鎌倉時代末期に北条泰家率いる鎌倉幕府勢と新田義貞率いる反幕府勢との間で起こった分倍河原の合戦の舞台になったと伝えられている場所に石碑が建てられています。新田川分梅公園内にあります。

- ・ 新田川分梅公園



水辺に近づきやすい親水整備が行われています。春には、桜に彩られるそうです。

- ・ しょうぶ池



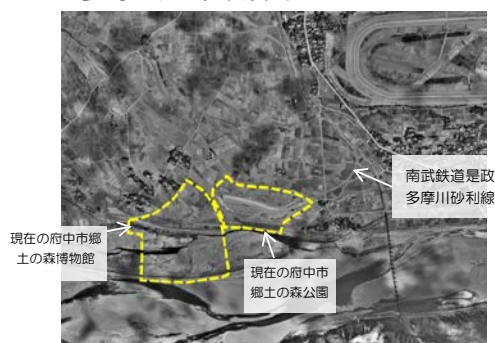
新田川緑道の地下水をくみ上げた池です。ここでは、ホタルの養殖を試みているそうです。

- ・ 府中周辺の土地利用



府中には、用水から水をひいて営まれる田んぼや畑などの農地が広がっていましたが、近年は減少しています。用水周辺では、今でも利用されている農地を見られます。

- ・ 多摩川の砂利採取



昭和 23（1948）年 3 月 29 日米軍撮影の航空写真
（国土地理院 地理院地図より）

博物館や郷土の森公園の周辺は、砂利採取によって掘られた巨大な穴（通称：砂利穴）を埋め立てて整備された場所です。

- ・ 道中に見られた梅



当日は、解散まで雨が待ってくれたことも幸いし、分梅で梅の花を楽しみながら歩くことができました。

3.6 質疑応答等

見学途中に参加者から出された質問や感想についてご紹介します。

【質疑応答】（当日の回答に一部補足しています。）

＜地形について＞

Q：これ（崖）は断層ですか？

A：多摩川によって形成された河岸段丘の崖です。

＜用水について＞

Q：（崖線の擁壁のパイプを見て）あの水は用水に合流しているのでしょうか？

A：下水に流入している。もったいないことです。

＜分倍河原古戦場跡の石碑について＞

Q：この石碑を立てたのは、新田義貞の子孫ですか？

A：はい。石碑の文字も新田義貞の子孫の新田義美さんによって、書かれています。

＜新田川分梅公園＞

Q：水路が二つに分かれています、これは何を意味していますか？

A：左側の水路は、昔の水路で子どもたちが水辺で遊べるような親水空間として整備しています。右側の水路は、現在の新田川です。



現場の写真

Q：新田川の水は今でも農業用水として利用されていますか？

A：はい。利用されています。

Q：緑道沿いの樹木に常緑樹が多いですが、樹種選定は府中市で決めているのですか？もう少し落葉広葉樹があるといいと思います。

A：樹種選定は、府中市で決めています。

Q：分倍河原古戦場跡の碑が、昔は分倍河原駅の近くにありましたが、現在の地に移動した理由はわかりますか？

A：はっきりとしたことはわかりませんが、鎌倉街道沿いだからかもしれません。

<しょうぶ池について>

Q：（しょうぶ池には）現在ホテルはいるのですか。

A：現在はいません。水が少ないなど、養殖できる環境が整っていません。

<雑田堀親水公園について>

Q：雑田堀のビオトープにある堰板は何のためにあるのですか？

A：ビオトープの土が流れ出さないように設置しています。

<その他>

Q：頭上の道路は、中央高速道路ですか？

A：そうです。中央自動車道です。

<参考>当日は、分倍河原古戦場碑に向かう途中で中央自動車道をくぐりました。



【感想】

<現地見学中のコメント>

コメント：（しょうぶ池にゴミが落ちているのを見て） こういうゴミ拾いまで誰かがちゃんと管理しないといけませんね。

コメント：（崖線上の公園整備を見て） せっかくいいところなのに、アスファルトで固めるなんて変ですね。

<アンケート結果より一部抜粋>

貴重なご意見をありがとうございます。今後の運営や川づくりの参考にさせていただきます。

- ・水路の水がどのように扱われているか見せていただきありがとうございます。
- ・すばらしい事です。今後も続けてください。
- ・中流域でも催し物が多いように感じる。上流や下流での催しを開催してください。
- ・地域の方の話を聞く時間もあると面白いと思います。

3.7 解散

石坂 真悟氏（TB ネット）

- ・ 最後に、別々に現地を歩いてきた 3 班が府中市郷土の森博物館前に集合しました。
- ・ 石坂さん（TB ネット）より、事務連絡とアンケートご協力をお願い、午後の歴史セミナーについて説明があり、解散となりました。



府中市郷土の森博物館前に集合



石坂さんによる事務連絡の様子

以上